

RSN第9回理事会

東京事務所開設で協議

アセスメントセンター構築へ

パチンコ依存の相談機関である

リカバリーサポート・ネットワーク（略称RSN・西村直之代表理事）は3月13日、東京・市ヶ谷の遊技会館で第9回理事会を開いた。

かねてから計画されていた東京事務所の開設について、西村代表理事はその業務をアセスメントセンターとすることとし、骨子について次の通り説明した。

▽アセスメントセンターはRSNから紹介された相談者に対し対面評価を行う。アセスメントは、RSN作成の評価用パッケージによってのめり込みの状態、生活への影響、他の依存との重複、精神医学的問題などを評価し、その結果を相談者にフィードバックし、活用してもらうほか他機関への紹介も行う。

▽アセスメントセンターはRSNの内部組織として発足し、経費はRSNの事業費として支出する。スタッフはRSNと雇用契約を結び、当面2〜3名の非常勤勤務を

確保する。

▽場所は東京都内を検討中で、トランプ対策も考慮し人通りの多い商店街物件を探している。サービス開始は今年の9月頃を目標とする。

▽予算は年間700万円前後が想定され、来年度まで資金の準備がある。

各理事から、この計画に賛成す



第9回RSN理事会で、事務局員（後方）の報告を聞く理事たち

る旨の意見が出されたが、将来の予算組みの資金について質問、協議が行われ、「予算や具体的な運用についてさらに詰めたうえ、臨時理事会で最終的な了承を得る」（西村代表理事）ことになった。

健全化推進機構臨時社員総会

新年度事業計画を承認

立入検査は2千ホール目標

一般社団法人遊技産業健全化推進機構（河上和雄代表理事）は3月17日、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモントで臨時社員総会を開き、平成26年度事業計画（予算）を承認した。

誓約書を提出しているホールへの随時、無通知の立入検査については、目標を25年度と同様2000ホール（遊技機・計数機合計）とすることを承認した。

機構によると、不正改造手口の巧妙化が進んでおり、従来の検査部員に加えて検査技術に精通した臨時検査要員も任命して1台あたり1時間をかけ、より精度の高い検査を実施するとしている。

なお、25年度の立入検査実績は2月現在1943ホール（遊技機2万3631台、計数機450台）

で、目標の2000ホールはクリアできるとしている。

機構を運営するための26年度予算4億2000万円と、社員14団体（全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商、自工会、補給組合、メダル工業会、同友会、余暇進、PCSA、認証協、PSA）の経費負担が承認された。

(株)ラスター日電協脱退
中古機移動で各関連に通知

日電協、回胴遊商は3月19日、(株)ラスターが日電協を同月31日付で任意脱退すること、それに伴う4月1日以降の同社製回胴式遊技機の中古機移動等の取扱に関して、中古機流通協議会に通知した。

これを受けて同協議会は構成団体に対して同様の通知を発し、周知徹底を要請した。

ラスター社によると、中古機移動並びに認定機の対応については、4月1日以降非加盟となることから、同社が自らの責任で行い、部材の提供については今後も遊技機の製造を継続するのでこれまで通り対応するとしている。

セキュリティ対策委員会

PSIO要綱改訂案を承認

サーバーネットワーク・ホームページも4月更新

第77回セキュリティ対策委員会（委員長・山田久雄日遊協副会長）は3月25日、日遊協本部会議室で開かれた。

遊技産業不正対策情報機構（PSIO）要綱の改訂案が承認された。新要綱は、旧不正対策情報機構要綱と同運用細目を統合したもので、不正対策室がPSIOの上部機構をセキュリティ対策委員会に一本化、運用の簡素化、用語、体裁の整理などを行った。新要綱は4月1日から実施に移された。

前回の会議で提起されたセキュリティ

対策委員会、中古機流通協議会、遊技機リサイクル推進委員会の機能的な再編について、構成7団体が基本的に賛成を表明し、3委員会に出席する委員らでたまたま台を作成することになった。



「いわゆるゴト行為への迅速な対策を講じるためのガイドライン」が必要部分の修正を終わり承認され、2014年5月1日から1年間有効となった。

サーバーネットワーク・ホームページについて、最終案が提出され、更新が認められた。4月3日から新しくなったホームページはタイトルで「甘い誘惑。ちよつと待て！ 攻略法と打ち子募集」と呼びかけている。

警察庁からの要請もあったホテル内の置き引き対策について、あるチェーン店における置き引きの実態が報告された。カードの紛失では7割が忘れ物で、3割が意図的な窃盗となっており、注意喚起のためのポスターの試案も提出された。

不正対策室会議

サーバー更新を検討

2月入力数は1昨年並み

不正対策室会議（室長・伊東慎吾日遊協常務理事）は3月24日、

日遊協本部会議室で委員ら15人が出席して開かれ、PSIO（不正対策情報機構）への入力状況の報告を行い、ゴト・不正情報について検討した。

2014年2月のPSIOオンラインネット（業界及び一般ファンからの不正情報）は、業界から23件、一般ファンから612件の入力があった。一般ファンの入力は、2013年2月と比べると131件（2013年2月481件）増えているが、数字的には2012年の前期並みに戻ったことになる。

ゴトはパチンコでは相変わらず磁石による玉がかりなど旧来からの手口が多く、パチスロに対してはやはり電磁波あるいはショットゴトが続いている。不正情報では、データ表示に関する異常についての入力が目立っている。

PSIOのサーバーに関しバックアップが機能しなくなり、現在のシステムも7年を経過しているため、サーバーの更新が提案され、各団体5万4000円の負担を含め組織で検討することになった。

検討を続けてきた不正対策情報機構（PSIO）の要綱改訂案について最終的に確認を行い、25日の

セキュリティ対策委員会で承認され4月1日発効した。

東京都・関東支部七部会

実機を使った講演

第2回東京都・関東支部セキュリティ部会は3月28日、本部会議室で開かれ、ホール、遊技機メーカー等から実務者を中心に35人が参加した。セキュリティ・コンサルタント会社の（株）ホーネット、神谷達営業部長らが「ホールセキュリティの現状と不正対策及びその方向性」と題して講演し、パチンコ・パチスロ遊技機4台を持ち込んでセル、磁石、低周波、クレジット等のゴトを実演した。

神谷氏は、「自店の現場に立ち、ゴト師の立場になって、この店だとうちやたらゴトを実行できるだろうかと感じてみる。そうすると自ずと店の弱点が見えてくる」とし、まとめとして、①セキュリティ強化の「仕組み化」②人材の確保と育成③防犯の風土づくり④防災との連携——などを強調した。

講演の後、6、7人ずつ5グループに分かれてディスカッションを行った。

イノベーション・パチンコ文化2014

「長期展望でパチンコ文化を」が討論で強調

パネルディスカッション。左から青松全日遊連理事長、庄司日遊協会長、美原大商大客員教授、藤森帝国データバンク東京支社情報部長



カジノ法制化からめ

シンポジウム初日(18日)のパネルディスカッションに

「パチンコ・パチスロイノベーション」で登壇、藤田宏(株)エンタテインメントビジネス総研社長がコーディネーターを務め、「パチンコ・パチスロ産業の活性化と未来戦略」をテーマに、カジノ法制化とからめて議論した。

ファン人口の減少について青松理事長は「2000年ごろから本来遊びであるはずのパチンコ・パチスロの営業の仕方が逸脱し、それが現在のファン人口半減にまで来てしまった」と述べた。その上で、去る1月にパチンコ・パチスロ産業21世紀会が「気軽に遊んでもらおう! パチンコ・パチスロ」のスローガンで発表した「宣言2014」を紹介し、遊技業界全体が危機意識を共有していることを強調した。

にファンのおすそ野を広げるかという活動だ。これは1年で終わるのではなく3年間を一つの期間として毎年続け、長期的視野で新しいパチンコ文化を創造していく」と述べた。さらに、活性化プロジェクトの中でメディアとの接点づくり、産業データの把握等の地道な努力も重要だとした。

産業の閉鎖性を指摘

カジノとの比較の中で、美原教授は「ラスベガスのカジノは、企業としての公平性、透明性、安全性、開かれた姿勢を、時間をかけて社会に浸透させた。そうすることでカジノ産業全体が社会から認知された」と述べ、「パチンコ産業も中・長期にわたる明確なビジョンを持ち、それを実現する戦略を立てることが求められる」と述べた。

藤森部長は「適時情報開示や決算資料公開を行っている企業の割合(情報開示指数)で見ると、上場企業が100なのに対してホール業界はたったの18・5だ。これはゲームセンターの38・2と比べても遙かに低い。また、情報非開示企業率では、上場企業は当然ゼロだがホール関係では38%もある」と密室性を指摘した。

最新機器展示会には93企業が参加、各台計数システム、省エネ・ECO製品、分煙・消音・消臭システム、顧客サービスシステム、セキュリティ等をはじめとする最新機器が展示され、業界関係者にぎわった。

機器展示には93企業

シンポジウムはこのほか、2日間で8講座、セミナーは20講座が開かれた。

警察人事

千葉県警人事(2月18日) 生活安全部長(柏署長) 金間章▽退職(生安部長) 新田修▽風俗保安課長(理事官兼少年課付) 向後忠男▽野田署長(風俗保安課長) 林三喜男

長野県警人事(3月10日) 生活安全部首席参事官兼生活安全企画課長(飯田署長) 須江和幸▽地域部首席参事官兼地域課長(首席参事官兼生安企画課長) 渋谷敬司

岡山県警人事(3月12日) 地域部統括参事官兼地域課長兼市警察部庶務課長(参事官兼生環課長) 森井理▽生活安全部参事官兼生活環境課長(赤警署長) 小倉誠

岩手県警人事(3月27日) 盛岡東署長(生安部長) 吉田尚邦▽生活安全部長(参事官兼警務課長・人財育成課長) 米澤崇▽生活安全部参事官兼生活安全企画課長(宮古署長) 一方井文彦▽花巻署長(参事官兼生安企画課長) 高橋忠市

は庄司孝輝日遊協会長、青松英和全日遊連理事長、藤森徹(株)帝国データバンク東京支社情報部長、美原大商大客員教授(IR*ゲ

九州支部役員会

東北支部と合同会議を

九州支部は3月19日、福岡県遊技会館で役員会を開き、樋口益次郎支部長以下14人が出席した。東北支部との持ち出し執行会について協議し、7月15日から2泊3日、場所は東日本大震災被災地を柱に、東北支部と詰めていくことを確認した。被災地の復興支援及び東北支部との連携強化を目的に、支部役員・会員の参加を予定している。

中部支部役員会

今年度活動方針を決定

中部支部役員会は3月11日、名古屋市・アイリス愛知で開かれ、山口悟支部長以下8人が出席した。山口悟支部長は「消費税が8%に引き上げられ経営環境はさらに悪化するが、業界が一体となって遊技人口の減少を食い止めなくてはならない」とあいさつした。

東北支部

クロマツなど順調に

支部役員は2月26日、緑化推進機構主催の「海岸林再生ワークショップ」に参加し、昨年植林した仙台共生の森も視察した。植えられたクロマツやヤマザクラは大雪の被害もなくすくすく育っていることが確認できた。

会員・業界消息

3月20日の第6回定例理事会で、新規入会申請のあった正会員5社、賛助会員2社の入会が承認された。

●新規入会 正会員

▼株式会社オータ

代表取締役社長・遠藤美告
東京都新宿区西新宿7・5・25

西新宿木村屋ビル

ホール。1971年設立。資本金4億9741万円。役員7人。社員505人。アルバイト155人。全日遊連加入。(推薦人・専務理事 篠原弘志)

▼株式会社平成観光

代表取締役・東野昌一
岐阜県多治見市宝町2・39・1

ホール。1989年設立。資本金

7500万円。役員4人。社員340人。アルバイト529人。同友会加入。(推薦人・フシミコーポレーション(株)深谷友尋)

▼有限会社リンクストウワン

代表取締役・本吉和朗
大阪市浪速区敷津西1・5・3

販売。2000年設立。資本金

300万円。役員3人。社員6人。関西遊商、回胴遊商加入。(推薦人・(株)パロット販売笠松義清)

▼キングレックス株式会社

代表取締役・林伊曼
大阪市西淀川区御幣島5・11・1

リサイクル関連。2002年設立。

資本金3000万円。役員3人。社員15人。回胴遊商加入。(推薦人・(株)パロット販売笠松義清)

▼株式会社レックプランニング

代表取締役・高仁植
埼玉県八潮市八潮3・18・8

販売。2012年設立。資本金

300万円。役員2人。社員2人。東遊商加入申請中。(推薦人・専務理事 篠原弘志)

●新規入会 賛助会員

▼株式会社アイ・コミュニケーション

●代表者変更

▼株式会社アリストクライトテクノロジーズ

代表取締役社長・菅沼正典
神田小川町東誠ビル8F

展示会その他のイベントの企画・

制作・運営・実施。2005年設立。資本金300万円。役員3人。社員7人。(推薦人・専務理事 篠原弘志)

▼株式会社エス・ピー・ジー

代表取締役・内藤和彦
東京都渋谷区神宮前3・35・19

パティマン・イケダ2F

販売促進企画・広告代理業・部備品製造販売。1994年設立。資本金2000万円。役員3人。社員20人。(推薦人・東和産業(株)岸野誠人)

▼KPE株式会社

代表取締役・木曾原和之
3月24日

▼株式会社新富商事

代表取締役社長・新富哲也
3月1日

▼オムロンアミューズメント株式会社

代表取締役社長・大前浩一
3月20日

▼株式会社新富商事

代表取締役社長・菅沼正典
3月6日

▼マミヤ・コスモシステム株式会社

代表取締役・木田喜三夫
2月1日

DATA SPOT

1か月で42店舗の大幅減少に

全日遊連は3月12日、店舗数、遊技機台数の2014年2月分を発表した。店舗数は、1月と比較してマイナス42店と大幅な減少となった。1万906の店舗数は、年間ペースだと昨年2月(1万1137店)と比べて、この1年間231店舗マイナスで、低下傾向は常態となっている。

遊技機では、パチンコが1年間でマイナス4万6345台(昨年2月279万8348台)と下がり続けている。一方パチスロ機はプラス4万453台(昨年2月144万1295台)と相変わらず前年比増を保っている。しかし、総台数では昨年11月から前年比マイナスに転じて4か月目で、パチスロ台の増加でパチンコ台の減少をカバーできなくなっている。

<注>店舗数、及び遊技機台数は各月の末日現在の数。表中の「その他」はアレンジボール、じゃん球、スマートボールを意味する。

貯玉補償基金加盟状況

	店舗数	前月比
北海道	251	+2
東北	556	+4
東京	592	-2
関東	1664	0
中部	532	+3
近畿	917	-2
中国	302	0
四国	156	0
九州	638	+1
全国計	5608	+6

(2014年2月28日現在)

全日遊連加盟店舗数・遊技機台数

平成26年	営業店舗数	新規店舗数	廃業店舗数	休業店舗数 (当月発生分)	遊技機台数			総台数
					ぱちんこ遊技機	回胴式遊技機	※その他	
1月	10,948	18	18	105 (12)	2,761,076	1,482,689	156	4,243,921
2月	10,906	5	37	113 (16)	2,752,003	1,481,748	156	4,233,907